360　中央大学商科実業講話会

〔『法学新報』第24巻3（273）号　大正3年3月1日〕

○中央大学商科実業講話会　中央大学商科第十一回実業講話会は紀元節の佳辰をトし二月十一日午後三時より本学大講堂に於て開催せられたり帝刻に至るや実業同窓会理事武田明氏開会の辞を述へて後続て「コールマネー」に付きて論せられたり此講話たるや氏か現に「ビルブローカー」として日日の経験より得られたるものにして机上の空論とは異なり一言一句活社会の実情にして吾人の参考たらさるはなし次に来賓中山佐市氏は自己の実業界に入りたる動機及ひ其経験を縷述せられ且つ現代学生の短所を指摘せられ学生生活を卒へて実業社会に入るへき者の採るへき方針、処世の方法等に付き懇に諭され吾人に一大活教訓を与へらる時既に午後五時なりき夫より食卓を開きて来会者七十名一堂に会食を為す談笑彼方此方に起りて和気堂に満つ食畢て来賓本学商科講師石川文吾氏立て信用調査機関の必要と題し世運の進歩は此種機関の必要を減するものにあらすして却て益其必要を感せしむるものなりとの得意の快弁を振はれ其論法の整然たること快刀の乱麻を絶つの概あり次に余興として同窓会理事久米良作氏の寄附により東都講談界の明星細川風谷の講談あり尋て来賓高崎介蔵氏は成功者ピーボデーの伝を得意の講談的口調を以て彼か幼少の時よりあらゆる困苦を辛めて遂に世

界の大富豪と為りたるも常に慈善事業の為めには多大の財を投して惜ます且又其郷里には大学を起して後進子弟の薫陶を以て楽しみと為したる彼の七十年間の生涯を説かれたり最後に同窓会員梶尾円平氏は官私立学校卒業生の比較と題し彼等官学出身者は社会より自己の実力以上の特権を附与せらるる結果卒業後奮闘努力を欠き彼等の前途寧ろ憐むに堪へたりと論し且つ話頭を転して処世の要訣を説き正直勤勉は処世の最良武器なりと結論せよ夫より余興として商科二年の古田島君の雄壮なる剣舞数番ありて其閉会と為りたるは午後十時を過くること二十分なりき（委員報）